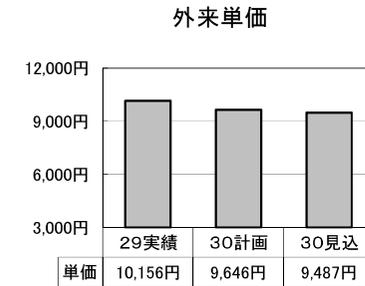
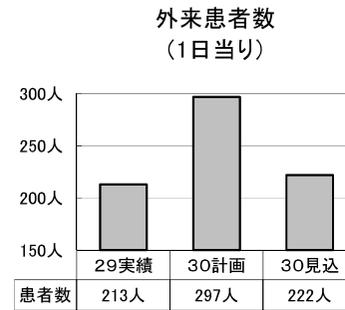
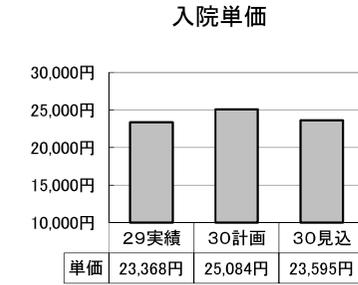
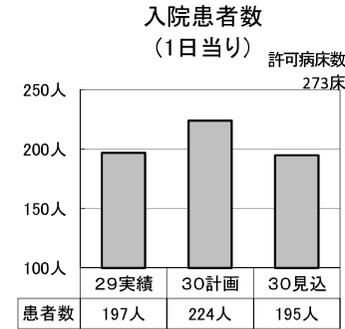
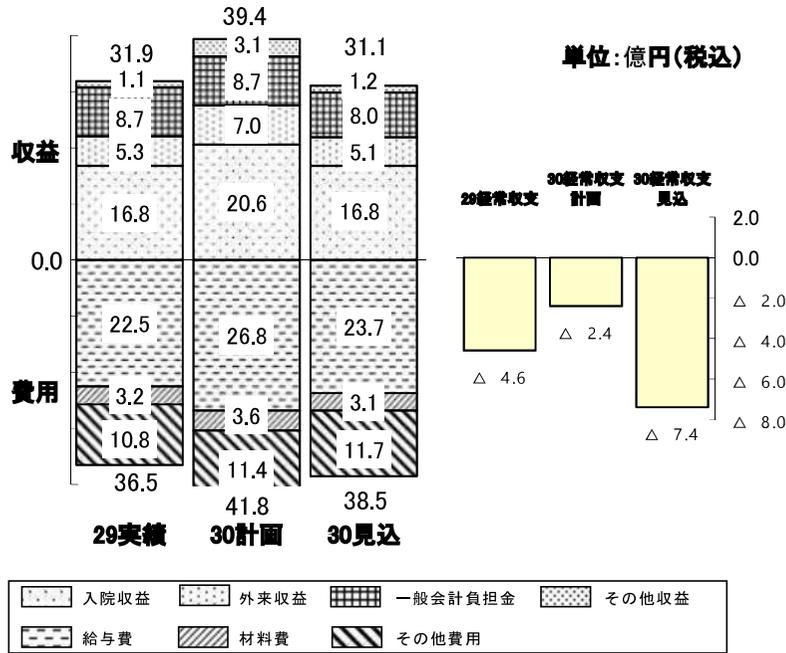


# 精神医療センターの取組状況

## 1 平成30年度計画と決算見込比較

資料5



### <収益>

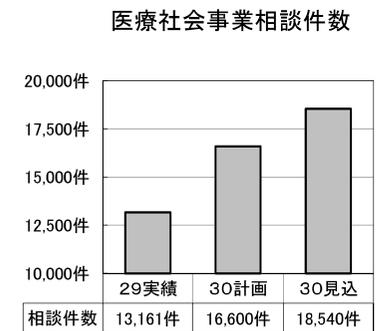
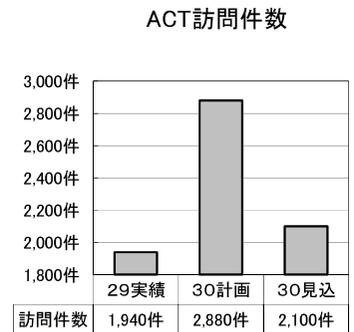
- 収益は31.1億円で、計画(39.4億円)に比較し8.3億円の減収。  
 ・入院収益は、患者数が目標を下回ったことや、民間では対応困難な入院患者が滞留したことによる単価の減などにより3.8億円の減収。  
 ・外来収益は、患者数が目標を下回ったことなどにより1.9億円の減収。

### <費用>

- 費用は38.5億円で、計画(41.8億円)に比較して3.3億円の減少。  
 ・給与費は、医師等の欠員や計画と実績の単価差により3.1億円の減少。

### <経常収支>

- 経常収支は7.4億円の赤字となる見込みで、計画(2.4億円の赤字)に比べ5.0億円下回る。



【参考】収益的収支見込（精神医療センター）

（単位：億円）

	H29 決算	H30			
		計画	見込	見込－計画	
収益	入院収益	16.8	20.6	16.8	△ 3.8
	外来収益	5.3	7.0	5.1	△ 1.9
	一般会計負担金	8.7	8.7	8.0	△ 0.7
	その他収益	1.1	3.1	1.2	△ 1.9
	収益 計	31.9	39.4	31.1	△ 8.3
費用	給与費	22.5	26.8	23.7	△ 3.1
	材料費	3.2	3.6	3.1	△ 0.5
	その他費用	10.8	11.4	11.7	0.3
	費用 計	36.5	41.8	38.5	△ 3.3
経常損益	△ 4.6	△ 2.4	△ 7.4	△ 5.0	
経常収支比率	87.3%	94.3%	80.9%	-13.4%	
医業収支比率	63.1%	68.6%	59.6%	-9.0%	

※ 特別利益、特別損失を除く

2 目標（成果指標）の達成状況

成果指標	単位	H29 実績	H30 目標	H30 見込	達成率
新外来患者数(初診料算定数)	人	1,190	1,200	990	82.5%
1日当たり外来患者数	人	212.9	297.0	221.7	74.6%
新入院患者数	人	677	840	727	86.5%
病床利用率	%	72.2	82.1	71.4	87.0%
平均在院日数	日	105.2	95.0	100.1	105.4%
ACT 訪問件数	件	1,940	2,880	2,100	72.9%
医療社会事業相談件数	件	13,161	16,600	18,540	111.7%

3 経営改善に関連する主要な取組

(1) 救急・急性期への対応

全面改築により個室・保護室が十分に確保され、患者の症状に応じた適切な医療を提供して病棟の運営効率を高め、精神科救急入院料（スーパー救急）（平成 28 年 8 月取得）や急性期治療病棟入院料（平成 28 年 10 月取得）の施設基準を継続している。

(2) 児童青年期への対応強化

平成 29 年 4 月から旧病棟で先行稼働させ、平成 30 年 2 月から新東病棟に移転し運用を開始した。また、平成 30 年 4 月から児童青年期専門デイケアの運用を開始した。

平成 31 年 4 月からさらに医師 1 名を確保できる見込みであり、専門外来の患者数の増加が見込まれ、専門デイケアや入院にもつながる効果が期待できる。

(3) 成人発達障害への対応強化

平成 29 年 4 月から医師 1 名を確保し、専門外来は週 1 回から週 2 回へ拡充した。平成 30 年 4 月からさらに医師 1 名を確保し、医師以外の職種のスタッフの増員もあり、専門デイケアでのプログラムの内容や回数を充実させた。

また、短期間で成人発達障害の診断をして欲しいという需要に応えるため、入院して診断を行うための病床を西 4 病棟に用意した。

(4) 救急受入体制の充実

予約以外の急な患者の受入要請に対応するため、新患補助の制度を新たに導入した。勤務時間中の当番（医師 1 名）を毎日交代で決め、当番の医師が急な患者の受入要請に対応している。

(5) ガスの一般競争入札による経費の節減

都市ガスの料金を安くし光熱水費の節減を図るため、当院で使用するガスの一般競争入札を、平成 30 年度に初めて実施した。入札の結果、契約単価が下がり大幅な節減を図ることが可能になった。（年間削減額 約 1,100 万円）